様式１１

みまもる五重の瞳（とう）

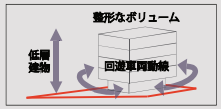
地域の歴史と記憶を縦軸に、機能と合理性を横軸に、安心と安全を織りなす警察署

テーマ１　警察機能を発揮させる機能的な施設づくり

■コンセプト：建物を低層に抑えながら敷地内に回遊車両動線を生み出す

○警察機能を発揮する３つの方針

1. 回遊車両動線：安全で迅速な出動動線の確保
2. 整形なボリューム：機能的な平面と警察の象徴性
3. 低層建物：部署間の連携や周辺への圧迫感の軽減



■迅速な出動：行止まりのない回遊性動線の確保

○敷地の四角形部分を警察エリア、三角部分を一般車両エリアとし、敷地内に明確なセキュリティラインを形成します。

○警察エリアの中央に整形な庁舎を配置し、庁舎廻りに警察車両の駐車スペースを設けます。その周りを回遊車路として、どの車両も２方向の迅速な出動動線を確保します。

○車庫棟は、杭柱一体工法とし、埋設配管に影響のない構造を計画します。

■安全な出入り：整形で機能的な建物配置

○警察と市民のエリアを明確に分離することで、一般車両エリアは充角のない安全な駐車場とします。

○一般車両出入口はバス停（バス停車スペース）からの離隔を確保します。また、学生登校時における自転車交通量が多い時間帯に、安全な待合いスペースを市民に提供します。（待合いテラス）

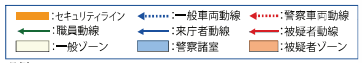
○敷地南西角の警察車両出入口は、敷地を隅切りして間口を広げ、安全性を確保します。

■防犯啓発：地域協働による防犯

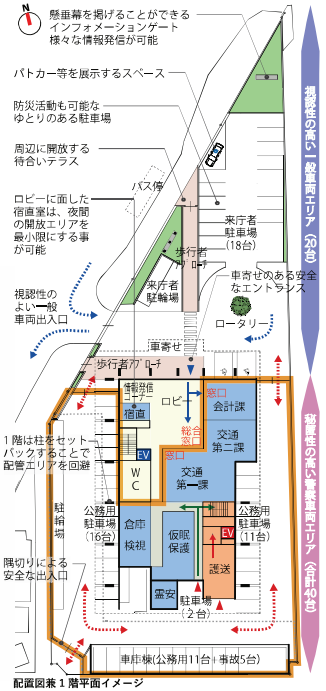
○1 階ロビーに視認性の良い情報発信コーナーを設け、防犯啓発の展示や児童の見学などに対応します。

○2 階のエレベーターホールから、地域の防犯活動等でも利用できる会議室を設け、地域協働の防犯体制に貢献します。

○一般車両エリアの一角にパトカーや白バイの展示スペースを設け、犯罪の抑止や警察署の PR を行います。



凡例



配置図兼１階平面イメージ

■部署間連携：５階建てによる広い平面の確保

○低層の５階建てとすることで各階の面積を確保し、関連する部署間の連携を高めます。

○窓口課：１・２階にまとめ、ロビーや EV ホールから各窓口が一望できる分かりやすい計画とします。

○留置・取調：３階に集約し、上下階の各課から取調室が利用しやすい計画とします。

○捜査課：捜査部門を同一フロアにまとめ、利用頻度の高い屋内教練場も隣接させます。

○道場・訓授：隣接して設けることで、地域のイベントや武道の大会時にも有効に利用できる計画とします。

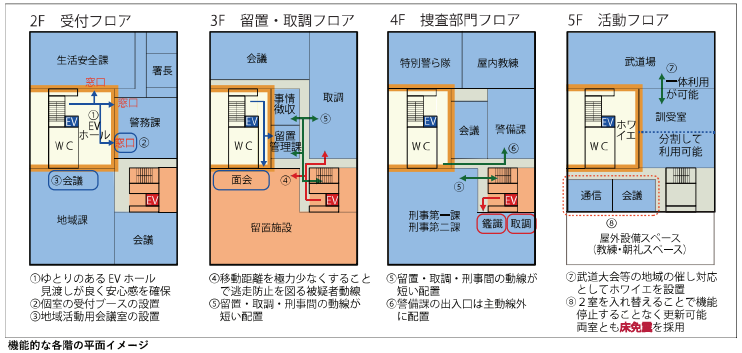
■防犯性と秘匿性：２つのコアによる明確なエリア区分

○来庁者用縦動線は窓口から視認できる位置とします。被疑者護送出入口は前面道路とは反対側の目につきにくい場所とします。

○被疑者護送縦動線廻りのコアは、窓のない堅牢な構造とし、逃走防止と周囲からの覗き込みを防止します。

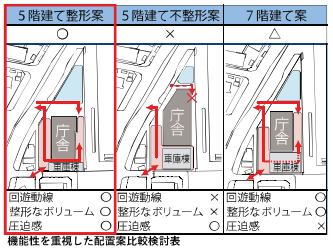
○留置管理課は、面会動線と被疑者動線を管理しやすい３階の中央に設けます。

○拳銃格納室や証拠品倉庫などの重要保管室は、ALC 等の堅牢な壁で区画し、盗難防止に配慮します。



機能的な各階の平面イメージ

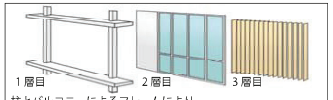
庁舎棟	建築工事費	1,700,000,000 円
	設備工事費	730,000,000 円
車庫棟		10,000,000 円
外構等		40,000,000 円
合計		2,480,000,000 円



機能性を重視した配置案比較検討表

■柔軟性と経済性：３層構成による外殻格子ファサード

1. 避難や点検機能をもつ構造フレーム
2. プライバシーや防犯性に応じて自由に配置できる壁や窓
3. 日射や夜間の光を制御する木製ブラインド



柱とバルコニーによるフレームにより、２層目の窓や壁の仕様に外観デザインが左右されないため、機能やコストコントロールを容易に行うことが可能となります。

コストや機能を調整可能な３層構成による外装計画

テーマ３　周辺環境と調和した魅力ある公共建築物としての施設づくり

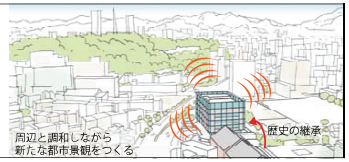
■周辺環境との調和：親近感のある外構やエントランスと周辺素材の継承

○敷地周辺は、TSS 新社屋の建設が進み、学校が点在する活気のあるエリアです。外構やエントランス廻りは、親しみのある開かれた空間づくりを行います。

○窓には県産木を利用したバーチカルブラインドを設け光を制御することで、素材の柔らかさと、光の柔らかさにより親近感のある警察署とします。

○被爆建物や既存のレンガ塀などの歴史を継承してきた素材を、庁舎や外構の一部に取り込み、土地の記憶を尊重します。

○近接する住宅に配慮し道場や取調室等の騒音が発生する諸室は北東に配置します。



旧広島陸軍被服支廠や敷地内の擁壁のレンガの質感を転写したコンクリートを構造フレームや外構の一部として利用し、この歴史ある敷地の記憶を受け継ぎます。

素材の転写による歴史の継承

■警察建築としての公共性：地域に永く根差す建築

機能性や連携性の高い敷地ゾーニングと低層整形ボリューム、耐震性・防災性・メンテナンス性を備えた外殻格子ファサード、景観性やプライバシーに貢献する木製ブラインドなど
必要な機能がそのまま外観デザインとなることで、地域（住と教育）に根差し、永く親しまれる建築とします。

必然のデザインがつくる都市景観

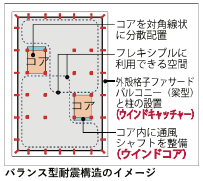
テーマ２　万全な防災対策による安全な施設づくり

■堅牢で安全な庁舎：分散コアによるバランス型耐震構造

○強固な耐震要素となる２つのコアを対角線上に配置する構造とします。フレキシブルな平面を確保しつつ、片コアに比べねじれの少ない構造です。

○無理な大スパンは設けず、梁せいを抑え、コストを抑制します。

○外周部の柱梁を日除けフレームやガラス飛散防止バルコニー、階段以外の避難経路として利用し、安全性を高めます。



バランス型耐震構造のイメージ

■浸水対策：１階を道路から１ｍかさ上げ

○浸水想定高さ以上の床高さとします。出入口への防水板の設置や１階コンセントの机上面設置など、津波に備えます。

○一般車両エリアは、敷地の長さを有効に利用した緩やかな水勾配でエントランスに導き、バリアフリーと浸水対策を両立します。

■応援部隊受け入れ対応：一般車両エリアのベースキャンプ化

○一般車両エリアを受け入れスペースとし、非常コンセントや水栓を設置します。

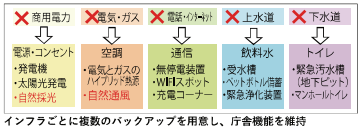
○ロータリーのある計画で、車両や資機材の受け入れにも円滑に対応します。

■２４時間機能維持：バックアップインフラ＋自然エネルギー＝ＢＣＰ

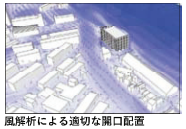
○自家発電設備による１週間のエネルギー供給に加え、太陽光発電および蓄電池により自然エネルギーも有効活用したバックアップインフラとします。

○空調熱源を電気とガス（発電型 GHP を検討）に分散し、機能継続性を高めます。

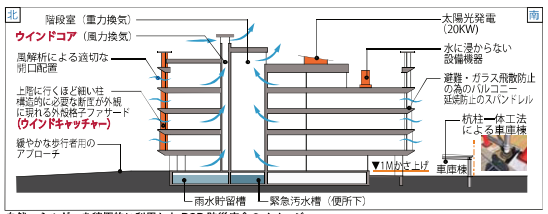
○風解析による適切な開口配置と自然換気シャフト「ウインドコア」により、空調停止の際も通風を確保します。また、換気回数が 10%～30%向上します。



インフラごとに複数のバックアップを用意し、庁舎機能を維持



風解析による適切な開口配置



自然エネルギーを積極的に利用した BCP 防災庁舎のイメージ